



2025年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年8月5日

上場会社名 株式会社ハウス オブ ローゼ 上場取引所 東
コード番号 7506 URL <https://www.houseofrose.co.jp>
代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 川口 善弘
問合せ先責任者（役職名） 取締役管理本部長（氏名） 佐藤 哲（TEL）03-5114-5800
配当支払開始予定日 ー
決算補足説明資料作成の有無 : 無
決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第1四半期の業績（2024年4月1日～2024年6月30日）

（1）経営成績（累計）（%表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第1四半期	2,683	△1.4	△145	—	△143	—	△130	—
2024年3月期第1四半期	2,722	△3.6	△122	—	△119	—	△108	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第1四半期	△27.77	—
2024年3月期第1四半期	△23.07	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第1四半期	9,069	5,558	61.3
2024年3月期	8,669	5,730	66.1

（参考）自己資本 2025年3月期第1四半期 5,558百万円 2024年3月期 5,730百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	12.50	—	12.50	25.00
2025年3月期	—	—	—	—	—
2025年3月期(予想)	—	12.50	—	12.50	25.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2025年3月期の業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	12,200	1.8	300	△18.3	293	△21.5	100	△18.0	21.27

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

- ① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2025年3月期1Q	4,703,063株	2024年3月期	4,703,063株
2025年3月期1Q	633株	2024年3月期	633株
2025年3月期1Q	4,702,430株	2024年3月期1Q	4,702,430株

※ 添付される四半期財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、本資料発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(セグメント情報等の注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期の国内景気は、一般的に緩やかな回復傾向が続いたものの、一部足踏みがみられる状況となりました。小売業やサービス業は、インバウンド需要やIT関連投資が好調に推移した一方、円安に伴うコスト負担の上昇や物流費、人件費等の増加に加え、人手不足も一層深刻になり、経営環境は明暗が一層鮮明になりました。

(直営店商品販売事業)

ハウス オブ ローゼ直営店は、ハンドウォッシュ（お客様の手を顔に見立て、洗顔料等を使用しお客様の手に触れながら洗顔方法をお伝えする、当社の強みである販売手法）を通じ、お客様一人ひとりに対する「ふれる（触れる）接客」を更に強化することにより、スキンケア化粧品の売上増加と共に業績の向上に取り組んでおります。その中で前年同期は、新客獲得に寄与していたボディスムーザー一期間限定商品の不振や人気の雑貨商品が原材料不足により仕入れができなかったことから客数が大きく減少しましたが、今期はそれらがある程度解消され、加えて猛暑を背景にクール感のある夏季限定ボディケア商品が好調に推移したことで新客数を中心に客数が増加、総客数は既存店ベースで約4%の伸長となりました。売上高は、前期からの退店の影響でほぼ前年同期並みでしたが、既存店ベースでは約3%増となりました。

EC事業は、自社運営サイトでは、初回購入促進策やCRM活動強化が徐々に成果として表れ、新規受注を中心として集客状況が改善、会員数も順調に増加し、売上高は前年同期比約2%増となりました。またAmazonモールを始めとする外部モールについては、各モールが実施するイベントの成否により売上高が左右される傾向がありますが、各モールとも概ね好調に推移し、外部モール売上高は前年同期比で10%弱の増加となりました。その結果、EC事業全体の売上高は、前年同期比約6%増となりました。

他の直営店商品販売事業を加えた当事業売上高は20億63百万円（前年同期比0.7%増）の微増でしたが、ボディケア商品や雑貨商品の売上増により売上原価率が上昇したこと、及びEC事業の営業経費が増加したことにより営業損失1億82百万円（前年同期は営業損失1億49百万円）と損失額が拡大しました。

(卸売販売事業)

卸販売事業は、一般的にボディスムーザー季節限定商品や夏季限定ボディケア商品が好調に推移する中で、個人オーナー店舗向け卸は、総客数が持ち直し1店舗当たりの売上も上向いてきました。しかしながら前期の大型店舗退店の影響で売上高は、前年同期比で微減となりました。大手量販店向け卸は、セルフ販売型の「リラックスタイム」が1店舗当たりの売上高が増加するなど堅調な動きを見せたものの、スタッフ派遣店舗については、前期から実施している売上低迷店舗に対し派遣中止による業態変更や期間限定商品の返品抑制強化がサマーセール商品の納入減の要因になる等、売上高は前年同期比で約10%減となりました。また一般卸は、前期の東京ディズニーランド開園40周年効果の反動減に加え、中国越境ECの低迷により前年同期比で30%弱の減少となりました。

以上の結果、当事業売上高は3億20百万円（前年同期比14.0%減）となりましたが、営業経費等の削減により営業損失は11百万円（前年同期は営業損失10百万円）と損失額は1百万円の増加に留まりました。

(直営店サービス事業)

リラクゼーションサロン事業は、GW明けから客数の増加と共にロングコースの需要が伸び、また気温の上昇に伴い当社の夏季限定クール商品を利用した「爽快クールコース」需要も伸長しました。売上高は、前期からの退店店舗の影響により前年同期比約15%減となりましたが、既存店（改装による長期休業中の店舗は除外）ベースでは約3.5%増となり、既存客数、新客数共に増加しました。

カーブス事業は、フランチャイザーであるカーブスジャパンのTVCM放映や退会会員への再入会アプローチの実施等が入会者の増加と退会者の減少に寄与し、会員数は期初比で約230名の純増となりました。また新規会員への物販も好調に推移し、スタッフ数不足が続く中で、売上高は前年同期比10%増となりました。

以上の結果、当事業売上高は2億99百万円（前年同期比0.4%減）と微減しましたが、カーブス事業の伸長が牽引し営業利益は48百万円（前年同期比29.7%増）となりました。

当第1四半期の全社売上高は26億83百万円（前年同期比1.4%減）となりました。経費面では賃上げによる人件費の増加に加え、EC事業の営業活動強化に伴う費用が増加したことにより、営業損失1億45百万円（前年同期は営業損失1億22百万円）、四半期純損失は1億30百万円（前年同期は純損失1億8百万円）と損失額が拡大しました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産

当第1四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末より4億円増加し、90億69百万円となりました。

流動資産は、前事業年度末より3億22百万円増加し、59億65百万円となりました。これは主に、売掛金が1億41百万円、商品及び製品が1億96百万円増加したことによるものであります。

固定資産は、前事業年度末より77百万円増加し、31億4百万円となりました。これは主に投資その他の資産が54百万円増加し、有形固定資産が25百万円、無形固定資産が2百万円減少したことによるものであります。

②負債

負債合計は、前事業年度末より5億71百万円増加し、35億11百万円となりました。これは主に電子記録債務が4億62百万円、賞与引当金が1億24百万円増加したことによるものであります。

③純資産

純資産合計は、前事業年度末より1億71百万円減少し、55億58百万円となりました。これは主に利益剰余金が1億89百万円減少したことによるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、前回発表(2024年5月14日決算短信)に記載の業績予想に変更はありません。上記予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2024年3月31日)	当第1四半期会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,146,785	3,101,905
売掛金	854,478	996,346
商品及び製品	1,570,729	1,767,306
その他	71,923	101,170
貸倒引当金	△1,049	△1,049
流動資産合計	5,642,866	5,965,678
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	303,982	300,828
工具、器具及び備品(純額)	19,311	22,282
土地	1,066,868	1,066,868
リース資産(純額)	51,566	77,193
有形固定資産合計	1,441,729	1,467,173
無形固定資産	11,997	9,304
投資その他の資産		
差入保証金	501,932	481,401
その他	1,071,428	1,146,424
投資その他の資産合計	1,573,361	1,627,825
固定資産合計	3,027,088	3,104,303
資産合計	8,669,954	9,069,982
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	163,148	87,145
電子記録債務	505,440	967,748
未払法人税等	178,343	31,924
賞与引当金	178,052	302,178
その他	557,956	720,927
流動負債合計	1,582,940	2,109,924
固定負債		
退職給付引当金	1,185,240	1,195,767
役員退職慰労引当金	113,374	116,564
資産除去債務	31,093	47,383
その他	26,927	41,536
固定負債合計	1,356,636	1,401,252
負債合計	2,939,577	3,511,176
純資産の部		
株主資本		
資本金	934,682	934,682
資本剰余金	1,282,222	1,282,222
利益剰余金	3,457,800	3,268,415
自己株式	△724	△724
株主資本合計	5,673,980	5,484,594
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	100,131	117,944
土地再評価差額金	△43,733	△43,733
評価・換算差額等合計	56,397	74,211
純資産合計	5,730,377	5,558,805
負債純資産合計	8,669,954	9,069,982

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
売上高	2,722,049	2,683,714
売上原価	815,045	796,967
売上総利益	1,907,003	1,886,747
販売費及び一般管理費	2,029,512	2,032,585
営業損失(△)	△122,508	△145,837
営業外収益		
受取配当金	1,442	1,741
受取助成金	1,093	—
その他	1,139	895
営業外収益合計	3,675	2,637
営業外費用		
支払利息	1,164	490
その他	—	104
営業外費用合計	1,164	594
経常損失(△)	△119,997	△143,794
税引前四半期純損失(△)	△119,997	△143,794
法人税、住民税及び事業税	24,720	23,066
法人税等調整額	△36,232	△36,256
法人税等合計	△11,511	△13,189
四半期純損失(△)	△108,486	△130,604

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第1四半期累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	直営店商品販売事業	卸販売事業	直営店サービス事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,048,283	373,125	300,640	2,722,049
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,048,283	373,125	300,640	2,722,049
セグメント利益又は損失(△)	△149,110	△10,435	37,036	△122,508

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益または損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	直営店商品販売事業	卸販売事業	直営店サービス事業	合計
売上高				
外部顧客への売上高	2,063,540	320,750	299,424	2,683,714
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—
計	2,063,540	320,750	299,424	2,683,714
セグメント利益又は損失(△)	△182,587	△11,281	48,031	△145,837

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第1四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年6月30日)
減価償却費	27,566千円	16,933千円